

ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・12月号・付録
2014年12月6日発行(毎月1回6日発行)
昭和43年3月8日第三種郵便物許可
〒160-0022
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F
NPO法人放送批評懇談会
TEL(03)5379-5521/FAX(03)5379-5510
ホームページ <http://www.houkon.jp/>
Eメール kondankai@houkon.jp
編集・藤田真文

第52回ギャラクシー賞 上期各部門の選考会はじまる

10月理事会報告

2014年10月28日、10月理事会が開催された。

1. 委員会活動報告

◇出版事業委員会 飯田編集長

・2015年1月号より編集委員の内藤圭介さんが副編集長になる。
・10月16日に編集委員会を開催した。大山勝美さん死去により、2015年1月号の特集を「4K8K」から「大山勝美さん追悼」に変更した。2月号の特集は「4K8K」の予定。

・12月号から目次にバードマンについての文書を掲載する。また、選奨委員会のページのデザインを一新して、コーナータイトルをつける予定。これについて討議。ラジオ委員会は次の委員会で検討したい。

・藤田専務理事より追悼特集を組

むかどうかは、会への貢献で判断するべきではないかとの意見があり、これについて討議。「編集部だけでなく、様々な人に取材してほしい」「会の内外に取材した集部」などの意見が出た。

◇選奨事業委員会 藤久委員長

〈テレビ委員会〉 古川副委員長

・第52回ギャラクシー賞上期の参加本数は125本で、前年より17本減った。30日に選考会を開催する予定。

・10月1日に9月度の月評会を開催して「日曜劇場 おやじの背中」(TBS)「NNNDキュメン」(TBS)「山津波 宅地開発の死角」(広島テレビ放送)「ドラマ24 アイホノオ」(テレビ東京)「NHKスペシャル 老人漂流社会」

後破産の現実」の4本を選んだ。
・滝野理事より前年に比べて17本減ったことの分析が必要ではないかとの意見があり、事務局で地上波、BS、CSなどの出品数の傾向を分析して、次回の理事会に提出する。

〈ラジオ委員会〉 橋本委員長

・10月14日に定例会を開催して、「今日も!あさぶり」(青森放送)と「情報ワイドきい☆ハンター」(和歌山放送)の朝の生ワイドを聴取した。

・第52回上期の参加作品は37本で、前年よりも1本減となった。選考会は10月20日に生ワイド部門、音楽&エンタテインメント部門を開催した。24日にドラマ部門、報道・ドキュメンタリー部門を開催した。いづれの部門も力作揃だったが、ドラマ部門の参加が少なかったのは残念だった。

・今年2回目の「ギャラクシー賞入賞作品を聴いて、語り合う会」を11月8日にTBSで開催する予定。優秀賞の「赤江珠緒 たまむすび」(TBSラジオ&コミュニケーションズ)のディレクターと、

優秀賞の「途切れた119番」(山形放送)のディレクターをゲストに迎える予定。

〈CM委員会〉 稗田委員長

・10月23日に定例会を開催した。好評だったのはサントリー天然水と日清カップヌードルの本音と建前等。29日に選考会を開催する予定。

・上期の参加本数は138本で昨年より11本増えた。広告会社、制作会社からの応募が主だが、スポンサーからの参加が若干増えた。

〈報道活動委員会〉 鈴木委員長

・上期の参加本数は13本で昨年より7本増えた。

・11月30日に「ギャラクシー受賞作を見て、制作者と語る会」をNHK放送博物館で開催する。

◇企画事業委員会 川喜田委員長

・シンポジウムの人選が難航しているが、近日中には決定する予定。

◇マイベストTV賞プロジェクト

滝野プロジェクトリーダー

・会員が1万人を超えた。9月の月間ノミネート作品は現在のところ、ジャニーズのABC・Z主演の「魔法★男子チェリーズ」(テレビ東京)がダントツ1位。

2. その他

①放送批評懇談会リーフレットの件
藤田専務理事

リーフレットがほぼ出来上がったので、理事一同で確認。直しがなければ、年内完成の予定。印刷部数は3000部を予定している。

②ギャラクシー賞 トロフィー・レプリカ検討

トロフィー・レプリカの頒布価格の試算表を提示。これについて討議。カード作成の費用を抑えた案を採用することを決定。

次回以降の理事会

11月26日(水)

12月17日(水)

【出席】音好宏、橋本隆、藤田真文、

川喜田尚、飯田みか、藤久ミネ、稗田政憲、鈴木嘉一、滝野俊一、碓井

広義、茅原良平、上滝徹也、桜井聖子、嶋田親一、古川柳子、山田健太

中島好登

会議記録

〔10月〕

1日 (選奨) テレビ月評会

14日 (選奨) ラジオ定例会

16日 企画事業委員会

20日 出版編集委員会

23日 (選奨) ラジオ、音楽&エンタテインメント選考会

24日 (選奨) C M定例会

28日 (選奨) ラジオドラマ、ドキュメンタリー選考会

29日 理事会

30日 (選奨) C M選考会

(選奨) テレビ月評会

(選奨) テレビ選考会



メディアの価値を高める

奥律哉

iPhone6が発売になった。画面サイズがさらに大きくなり、バッテリー容量も格段に向上した。

モバイルブロードバンド環境の高速大容量化とデバイスの性能向上に伴い、ますます人々はIP経由で情報エンタテインメントに接するだろう。若い人ほどその傾向は強く、やがてその人々が社会の中核を担う年齢になる。彼らの行動はながら行動が基本で、隙間時間を有効利用し、より便利なものを好み、友人との調和を重視、情報の出所(オリジナル)を意識しない。故に「時制の一致」があいまいだ。その出来事が、過去の話なのか現在の話なのか必ずしも明確に意識/区別されていない。翻って、視聴者の生活時間に合わせて編成してきたラジオとテレビ環境変化に伴う伝送路拡大やメディアアリテラシー多様化に向き合う必要がある。放送サービス・番組やCMのコンテンツ力を高める。その一翼が担えればと思います。

何卒よろしくお願い申し上げます。

新入正会員自己紹介

ラジオが好きです

中村亮平

1968年、新人アナウンサーとして赴任したNHK福井放送局で最初にやらされたのはラジオの天気予報と6ミリテープの編集でした。ハサミで切る作業からパソコン編集に変わりましたが、半世紀近く経って今も同じような仕事をしています。

1995年の阪神淡路大震災の時、東京のラジオスタジオで朝ワイド番組を担当していました。大震災でラジオは大いに見直されましたが、反省点も多々有り、民放とNHKの現場の担当者が毎月集まって、ラジオメディアの在り方を話し合いました。ラジオの良さを意識しました。その後、病気で入院した時、ゆったりと落ち着いた声で語りかける「ラジオ深夜便」を聞き始め、定年退職後、制作グループに加わりました。

メディアを取り巻く環境は変わりましたが、ラジオの基本は変わりません。予算も人も少ない中で頑張っているラジオ人は全国に沢山います。そんなラジオの応援団になりたいと思います。

お知らせ

放送批評懇談会ホームページには「正会員」の情報が掲載されています。掲載中の情報の変更をご希望の場合は、事務局までメール、FAX、電話でご連絡ください。

メール kondankai@houkon.jp
FAX 03-5379-5510
TEL 03-5379-5521

よろしく願いいたします。

公開シンポジウム

〈ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会〉Vol.7

- 日時 2014年11月30日(日)午後1時開始、5時終了予定
- 場所 NHK放送博物館・愛宕山ホール 東京都港区愛宕2-1-1(電話 03-5400-6900)
- 主催 NPO 法人 放送批評懇談会 ギャラクシー賞報道活動部門委員会
NHK放送博物館
- 入場無料(定員 100人) 事前の申し込みは必要ありません

今年で第51回を数えたギャラクシー賞にはテレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門があります。このうち報道活動部門は個々の番組枠を超えたキャンペーンや息の長い調査報道、地域に密着した長期シリーズ、スクープ的な報道などを対象にして、2002年に新設されました。これまでにテレビ朝日の「ザ・スクープスペシャル 告発! 警察の裏金疑惑」シリーズ、札幌テレビ放送の「がん患者、お金との闘い」シリーズなどが大賞に輝き、ラジオ局やケーブルテレビ、コミュニティFMなども受賞しています。

しかし、これらの優れた報道活動は放送エリア外ではなかなか視聴することができません。そこで、ギャラクシー賞報道活動部門委員会では2008年から毎秋、東京で「ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、制作者と語る会」を開催してきました。受賞作のダイジェスト版を上映するとともに、その報道活動に携わった制作者をゲストとして招き、報道活動部門の選奨委員らとトークを繰り広げます。

今回は「地域の人々と現実に向き合うか」というテーマを設定し、第51回ギャラクシー賞報道活動部門の受賞作3作を取り上げます。大賞を受けたNHK広島放送局の『里山資本主義』の提言と報道活動は、無価値と思われてきた里山の資源を生かす新たな経済活動に光を当て、「本当の豊かさとは何か」を考えさせる提言報道です。出版化やインターネットによる動画配信によって、「中国山地から始まった静かな革命」は全国に発信されました。

札幌テレビの「タンチョウ衝突死～保護活動への警鐘～」(選奨受賞)は、特別天然記念物のタンチョウが釧路湿原一帯で増え、列車とぶつかって死ぬ事故が相次いでいるため、その背景や保護活動のあり方を掘り下げました。テレビ朝日映像の「アーサー・ピナード 日本人を探して」(選奨受賞)は、BS朝日の報道番組「いま日本は」の企画コーナーで、日本語が達者なアメリカの詩人が全国各地を訪れ、伝統と風土に根ざす人々と対話を重ねます。写真で構成し、言葉の重みを際立たせる手法が新鮮です。

制作者、研究者、視聴者を問わず、多くの皆さんの参加を望んでいます。

◇ゲスト

NHK 報道局 チーフ・プロデューサー (前NHK広島放送局勤務) 井上恭介
札幌テレビ放送 報道部マネジャー 真鍋浩史

「アーサー・ピナード 日本人を探して」ディレクター 松井亜菜子

◇司会 ギャラクシー賞報道活動部門委員長 鈴木嘉一

このほかに、報道活動部門選奨委員がパネリストとして参加します。

＜会場へのアクセス＞

- 最寄り駅 地下鉄日比谷線 神谷町
(3番出口、徒歩8分)



＜問い合わせ＞

- 放送批評懇談会 03-5379-5521(平日 10時～13時/14時～18時)